

福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画策定委員会【第4回会議】 議事録

- 1 日 時 令和元年10月4日（金） 13:30～15:30
- 2 場 所 福島市役所4階庁議室
- 3 出席者 佐藤 滋 委員長、本杉 省三 委員、㊦西田 奈保子 委員、門田 敦嗣 委員、
中村 芳朗 委員、三瓶 章 委員、後藤 忠久 委員、㊦吉田 秀政 委員、大関 宏之 委
員、竹田 有理 委員、齋藤 美佐 委員、山崎 由美 委員、㊦小林 静香 委員
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ① 第3回委員会の振り返り等について
 - ② 施設の運営・管理の方向性等について
 - (3) その他
 - (4) 閉会
- 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換
- 6 委員の主な発言

○委員 施設の運営体制については民間会社等1社に任せるか、複数の民間会社で構成された組織に任せるかなどを決めていくことが必要。民間会社は営業収益を上げる必要があるが、市に対しても収益を収めるような形にすることが望ましい。地元企業か県外企業かは別として、県外や域外から福島市にユーザーを誘致できる力量がある者に任せるべきである。仙台国際センターに関しては、1社ではなく地元企業と県外企業で構成された組織が運営を担っている。行政が外郭団体（観光協会等）に委託して施設運営を担う場合も考えられる。

コンベンション施設の運営の失敗事例としては、指定管理者等の施設運営者のみがコンベンション情報を管理する体制である。情報開示できない運営者に運営を任せては失敗してしまう。仙台市では、市と観光国際協会と毎月情報交換を行い、誘致戦略を協議できることを条件として施設運営者を募集した。民間事業者に任せきるのではなく、きちんと行政が関与し、自分たちで作っていくという意識が重要である。

また、地元の組織の話があったが、新たにNPO等を設立する必要はなく、既存の商店街協議会等の協力を得て、連携できる仕組みを構築すればよい。

○委員 大きさの問題で、先の「公共施設検討委員会」、「中心市街地将来ビジョンの提言」の中では、「想定催事の開催件数や利用者数等を分析、イニシャルコスト及びランニングコストを含めた費用対効果の検証」、また「市場についての分析調査を行うとともに、費用対効果の検証」との提言となっている。現状の施設規模の想定では、県文化センターと競合してしまう懸念がある。コンベンションについては、例えば医学系・学術集会・研究集会等では福島、宮城県内の開催状況は減少傾向にあるようだ。需要について相当の調査をする必要があると感じている。

興行については、東京にある劇団四季の専用劇場でも1,200人規模であり、1,500人規模の大ホールというのは過大と思われるのでマーケティングを含め再検討が必要ではないか。市、市民、公演する団体にとっても、適正な規模とするため、もう少し検討すべきではないか。施設運営は、指定管理者等への委託を想定する前に、行政が包括的な立場から、管理責任の主体であるという意識が必要である。

○事務局 音楽プロモーター等へのヒアリングから1,500人規模が採算ラインであると聞いており、

大ホールの規模は妥当と考えている。また、CD購入等の需要は低下している一方、ライブ等の需要は増えている。

- 委員 大都市ではなく地方都市について個別に調査したが、メジャーアーティストでも1,500人規模を満席とするのは難しいと聞いており、1,500人規模の大ホールは大きいと思われる。また、大きなホールの場合、2階席が空席となる状態では舞台と観客の一体性が低下し催事を開催しにくいようだ。
- 事務局 大ホールの規模は、第3回委員会において1,500人規模で進めるという概ねの方向性を得たと考えているが、ご意見があれば他の委員からも伺いたい。また、技術的な課題はあるものの、客席数を変えられる方法もあると考えている。
- 委員 新聞記事で最大3,000席と記載されていたが、どのような想定なのか。
- 事務局 大ホールが1,500席、展示ホール1,500㎡で1人/㎡とすると施設全体で最大3,000人収容と換算したものと捉えている。
- 委員 賑わいを中心市街地へ広げる取組の例として、駅前広場を含めた事例を示されているが、本市では福島駅を含めることを想定しているのか。
- 事務局 福島駅からの流れも含めて一体的な視点で検討すべきと考えている。
- 委員長 ご意見の中で、運営体制について、指定管理者制度ではなく、行政が施設運営に関与すべきとあり、この視点も重要だと思う。事務局はどのように考えているのか。
- 事務局 運営体制については、指定管理者制度の導入がありきではなく、指定管理者制度を含め幅広く検討していくことを考えている。
- 委員長 開業から運営が安定するまでは市が運営し、それ以降民間事業者に任せる事例もあるので、今後、様々な意見を聞きながら事務局で検討してほしい。
- 委員 本施設を主に何に使用したいのかが不明である。医療系の学術会議なのか、市民利用なのか。例えば、演劇ホールを市内に整備したいと考えている団体があることを伺っているし、採算ベースだけでなく、ホールの利用目的を明確にするべきと考えている。
- 委員 施設のコンセプトを実現するための視点は重要であり、特に効率的で持続可能な運営を図っていくことを重視する必要がある。また、エリア全体で市民や来訪者にとって魅力的な場所とすることは重要な視点であり、その中で公共空間が果たす役割は大きい。施設の価値を高めていくためには、公共空間の利活用について様々な関係者が意識を持って連携を図っていくことが重要である。
- 委員 市民が他人ごとではなく自分ごとで施設を利用していく考えが重要と感じた。須賀川では、施設の使い方をワークショップ等で何度も議論を重ねている。エリアマネジメントの事例のように大学生等の若い人の視点をまちづくりに活用していくことは有効である。また、まち歩きアプリなどを活用できるとよいのではないか。
- 委員 施設運営においては、民間視点を反映することは有効と考えられるので、行政と民間が検討を重ねていくことが必要である。福島市のためだけの施設ではなく、県北としてのにぎわいに寄与できる、南東北の中心地として人を呼べる施設としてほしい。
- 委員 市民懇談会の開催結果について、参加人数が40名というのは寂しく感じており、市民と

の意見交換が不十分と思われる。そのため、今後も市民の声を聞いていく機会を設けてほしい。

断面イメージとして公共空間が1階から配置されているのは非常によいと感じた。駐車場については、コンクリートの寒々しいもので通りを分断するのではなく、壁面緑化を行うなど、駅から本町やパセオ通りへつなげ、人が流れていくと良い。

- 委員長 公共空間は、ぜひ市民や地元企業に積極的に使ってほしいと思う。どのように使っていくか、責任をもって一緒に考え作っていくことが重要。
- 委員 市民にとっては本事業がまちづくりの一環であるということを忘れずに検討を進めてほしい。また、イメージの共有が不足していると感じたので、委員を含め情報の受発信を丁寧にしていく必要がある。
- 委員 福島市では文化条例が制定されていないが、条例を制定することにより幅広い運用ができるようになると考えている。
- 委員 断面イメージについて、バンケットがホテルと離れているが問題ないか。また、商業施設の想定規模はあるのか。
- 事務局 プランは現在検討中であり、バンケットはホテルや公共施設との連携を重視して配置を検討していく。商業施設についても規模等を含め検討中である。
- 委員長 商業機能については、早い段階から最終的な規模を設定するのは難しいと思われる。公共施設の場合には、先にある程度の規模を設定する必要があるが、大ホールの規模については1,500席必要という意見と、規模が小さい方が使い勝手がよいというご意見があった。客席数を変えられる施設もいくつかあるとのことである。
- 委員 客席数を変動させることは可能である。例えば、石巻市のホールでは幕等により上階を覆い、松本市のホールは天井が昇降する形で客席数を変動させる機能となっている。持続可能な規模設定については、大ホールの客席数だけを重視すべきではなく、施設全体について考えていくべきでものである。大ホールだけでなく練習室を含めた活動イメージを固める必要がある。運営については、運営する人がどのような組織に属しているかが重要。また、市の財政負担も含め、早めに運営を担う者を決めていくことが必要。
- 委員 民間企業が施設を運営する立場としては、大ホールの客席数は、1,500人規模が最低ラインだと考えている。
- 委員 連携・協力をどのように進めていくかが不透明であるので、今後詳細な検討が必要である。民間活用については、民間に期待する事項を明確にする必要がある（例えば、コスト削減やイベント誘致など）。また、民間にとってはインセンティブも必要。タウンマネジメントの視点は重要であり、施設運営者とまちづくり組織を一体化すべきか分離すべきかなど協力体制をどのように構築していくかを検討すべきであるが、運営体制については現時点で固める必要はない。どのように人を呼び込むかについては、施設単体で考えるのではなく、民間施設や周辺の公共施設と一体で考えていく必要がある。
- 委員 賑わいづくりは施設単体で行うものではなく、まち全体で盛り上げる文化的なイベントがあるとよい。松本市では多くのボランティアによってクラシックフェスティバルが開催されているが、出演者に温泉無料券を配布するなど温泉宿などとも連携している。結果的にそれがプロのアーティストと地元住民とのふれあいに繋がっている。最近では歌舞伎も開催しており、まちなかを歌舞伎役者が練り歩くなどまち全体でイベントを盛り上げている。皆さんの参加を促すような雰囲気作りも重要であり、再開発に携わる人を中心に人の巻き

込みを図り、全体として盛り上げる必要がある。

- 委員 賑わいづくりとしては、現在駅前通りで歩行者天国などイベントを開催している。ただ、市民から身近に手軽にイベントを開催できるようにしたいという声があったため、「福島情熱通り」と題して、今後開催する予定である。
- 委員 搬出入EVの間口は4.5m必要と考えているが、想定規模があれば教えてほしい。
- 事務局 今後、詳細を検討する予定である。
- 委員長 それでは他にご意見がなければ、事務局より次回の予定について説明をお願いします。
- 事務局 次回は、開催日を調整し、確定次第、連絡する。